

1 学校として目指す授業

考え、豊かに表現する力を育てる授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校 6 年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
国語・算数の両教科において全国平均および都平均を上回っており、児童の学力は概ね定着しているものと考えられる。算数は「数と計算」「変化と関係」が良好な結果であった。一方、「図形」「データの活用」に課題があり、図形の性質をもとにした説明や、数量関係の考察と記述力の育成とともに、図・式・言葉を用いて筋道立てた説明力の育成が必要である。 国語においては、漢字配当表の漢字を文中で正しく使うことや、相手に伝わるように理由や事例を挙げて構成を考える力に課題が見られた。今後は、日々の漢字練習と文章構成力の向上が必要である。	学習面では、算数や国語に対して「得意」「好き」と回答した児童が70%程度と高く、GIGA端末を活用して情報を整理したり資料を作成したりできる児童も87.7%に達している。さらに、総合的な学習の時間でGIGA端末やICT機器を使い、情報を収集・整理して発表できた児童も80%と高い割合を示している。一方で、5年生までに授業でGIGA端末をあまり活用していないと感じている児童が53%と半数を超えており、さらなる日常的な活用促進が課題である。また、読書や情報収集の習慣についても、新聞を読む児童は25%と低く、図書室を毎週利用する児童も16.1%にとどまっている。生活面においては、悩み事について「親や家族と話し合わない」と回答した児童が54.3%と半数以上を占めており、コミュニケーションや精神的な支援が求められている。

(2) 都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（小学校 4 ～ 6 年生）

授業の理解度は理科 (3.6) が最も高く、社会 (3.3) がやや低めという結果となった。（※数値は4ポイント満点。以下同じ。）これに対して得意意識は理解度よりも全般的に低く、特に国語 (2.8) や社会 (2.9) においては、「分かる」という理解度と「得意」という意識との間に大きな差が見られた。 学習理由は、「将来に役立つ」「友達と学ぶのが楽しい」（各3.4）といった主体的な動機が高く、「人に負けたくない」「ほめられたい」などの外的な動機は低い (2.5～2.6) という傾向が見られた。 教科別では、国語は漢字の反復練習 (3.2～3.5) が定着している一方で、部首の意味理解 (2.8) や他者の話を聞く際のメモ取り (2.6) など、深い理解につながる工夫はやや弱い。算数は計算のミス確認 (3.3～3.4) が強い一方、図や表への整理 (2.9) や用語・公式の暗記 (2.9) がやや課題となっている。 全体としては、「友達や先生と学習することが楽しい」が86%、「わかることやできることが楽しい」が84%と学習に対して肯定的であった。一方で、課題の間違いを振り返ったり、他者の考えを知ったりして、学習の幅を広げ、深めることに対しては、まだ改善の余地がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
R8「東京ベーシックドリル・診断シートB」の結果では、平均正答率が63.6%と比較的高い学力水準である。R7の重点課題「読み取る力」の育成は、個別支援の成果により一定の向上が見られた。今後の課題は、思考力と記述力を要する「図形の考察・説明」「データの活用・数量関係の考察・記述」の2点である。 外部評価の結果（保護者の評価）からは、「お子さんは学ぶ楽しさを味わっている。」92%、「お子さんは安心して通っている。」93%、と回答があった。その他の質問も肯定的な高い数値となっているが、「GIGA端末の情報を活かしている」は71%と他項目を下回っており、効果的な活用法を確立し具体的な運用への道筋をつけることが今後の課題であると考察する。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・各教科、基礎・基本の内容について、授業における確実な定着や計画的な復習が必要である。また、配慮を要する児童について学年間で共有し、専科や教科担任制の授業を行っていく上で個別の支援や指導の工夫を改善していくことが課題である。 ・問題の解決に向け、資料や友達の考えを参考にしたり比較したりしながら、自分の考えをまとめることが苦手な児童が一定数いるため、まず、自分の考えをしっかりともち、表現する方法を身に付ける機会を計画的に設定していく必要がある。 ・ICT機器やGIGA端末の活用について、GIGA端末の効果的な活用法を確立し、具体的な運用への道筋をつけることが今後の課題である。
--

4 学校全体の授業改善の視点

・ICT機器やGIGA端末の日常的な活用と共に、自分の考えをまとめ、表現したり、他者の考えを参照したりして、自らの考えを豊かに表現する力を育てる授業
--

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	教科書の本文や挿絵を拡大提示し、視覚的に分かりやすくすることで言葉や表現に着目できるようにする。児童が目的意識をもって言語活動に取り組めるよう、伝える相手や目的を明確にする。				具体物を操作する活動を増やし、理解を確実にする。簡単なGIGA端末操作も行い、他者参照の機会を増やしていく。 デジタル教科書やプレゼンテーションソフトなどのICTを活用し、問題や児童の考えを黒板に投影し、全体で問題把握を適切に行えるようにする。				撮影した写真や発見した考え・気付きをGIGA端末を活用して共有し、グループで比較検討する活動を取り入れる。また、GIGA端末に表したものをプロジェクターでスクリーンに投影して発表させることで、調べたり考えたりして伝えたいことを豊かに表現できるようにする。		ICTを活用して、音楽を視覚的にも捉えられるようにする。友達表現に多く触れる機会を設定し、音楽のよさや面白さを味わえるようにする。		材料や素材の特徴を捉える時間を十分に確保し、自分のイメージしたことを表現する活動を通して、発想する力を育む。				模範的な動きを動画で撮影し、全体に提示することで、遊び方を広げたり、よい動きを確認・共有したりする。				教材提示の際にデジタル教材の朗読機能や紙芝居機能を用いて、より児童が教材の世界観に入り込めるようにする。	
中学年	基礎・基本の定着を図るとともに、ICTを活用して自分の考えを整理したり、友達の考えを参照したりする活動を取り入れる。話し合いや書く活動を通して、考えの理由や根拠を明確にし、筋道を立てて表現する力を育てる。		資料から必要な情報を読み取り、比較・関連付けながら考えをまとめる活動を充実させる。GIGA端末を活用して情報を収集・整理し、友達の考えを参照しながら、自分の考えを新聞やポスター、スライド等にまとめ、表現する機会を設定する。		数量関係や課題を正しく把握するために語句に線を引きながら問題を読んだり、図や表、式を用いて自分の考えを書いたりする活動を十分に確保する。また、GIGA端末を活用して協働的な場面を取り入れることで、多面的に考えることができるようにする。		観察・実験の結果を予想や既習事項と比較し、結果から分かったことや考えたことを筋道立ててまとめる活動を充実させる。GIGA端末を活用して結果や考えを共有・比較し、他者の考えを参考にしながら自分の考えを深め、表現できるようにする。				協働的な活動から友達の表現のよさに気付けるようにする。 ねらいに応じてGIGA端末を活用し、音楽のよさや面白さを多面的に味わうことができるようにし、音楽的な見方・考え方を育てる。		思いついたことを試す活動や試して感じたことを共有する時間を十分に確保することで、発想や構想する力を育む。				運動のポイントや自己の課題を捉え、動きの変化や友達の考えを参考にしながら、よりよい動き方を考える活動を取り入れる。GIGA端末等を活用して動きを記録・確認し、考えたことや分かったことを言葉や動きで表現する機会を充実させる。				自分の考えをもつ時間を確保するとともに、友達の考えを参照・比較する活動を取り入れ、多面的・多角的に考えられるようにする。ICTも活用しながら、考えたことや感じたことを安心して表現し、互いの考えを基に自分の考えを深める活動を充実させる。	
高学年	目的意識・相手意識をもった言語活動の設定をする。教科書の叙述を具体的に想像できるよう、GIGA端末を活用して写真・動画を提示する。児童同士で考えを共有することで、考えを広げられるようにする。		ICT・GIGA端末や図書資料等を効果的に活用し、児童が自ら課題をもち、主体的に追究できる授業展開を工夫する。予想する、調べる等の学習過程を通して思考を深め、考えたことを表現・交流する場を設定する。		数量関係や課題を明確にし、表や式、グラフを用いて自分の考えをまとめる活動を十分に確保する。また、GIGA端末の活用も取り入れ、自立的、協働的に取り組みながら多面的に考えることができるようにする。		予想や実験結果を記録・共有し、図表やグラフを用いて考察する活動にICT端末等を取り入れるようにする。友達の考えと比較し、根拠を基に自分の考えを見直して、結論を分かりやすく表現する力を育てる。				聴取と感受を結び付ける場面を効果的に設定することで、音楽的な見方・考え方を深められるようにする。必要だと感じた時にGIGA端末を活用する機会を設定することで主体的に取り組む力を育む。		ICTを活用した活動や協働的な活動、感じたことや考えたことを書いたり話し合ったりする活動を効果的に取り入れることで発想を広げたり学びを深めたりし、自ら発信する力を育てる。		どうすれば生活をよりよくしていけるのかを考え、ICT等を使い調べることで思考力を高めるとともに、GIGA端末を用い友達との意見の交換を通して、さらに思考を深める。		自ら様々な資料を活用して動きを確認したり、友達と見合ったりする中で客観的に観察し、よさや改善点を見付ける。その内容を伝え合うことで思考力や表現力を深める。		目的や場面、状況を明確にした言語活動を設定し、児童が思いをもって英語で伝え合う授業を充実させる。また、Small Talkやペアでのやり取りを継続的に行い、英語を使ってコミュニケーションを図る経験を積み重ねることで、表現することへの自信を高める。		考えを伝え合う言語活動を通して、答えは一つではなく、多様な考え方があることに気付かせる。多面的・多角的な視点をもち、自己の生き方について考えを深める。	

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。 ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。 ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。 ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。 ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。